



2021年3月期 連結決算概況 2022年3月期 通期業績見通し

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ハイライト

2021年3月期 実績

- ✓ 売上高： 下期は顕著な売上回復が見られ、通期では▲3%の減収まで回復
特に第4四半期は、内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を実現し、大幅な増収
- ✓ 営業利益： 通期の営業利益率は11%と、2月時点の見通しを上回る
第4四半期は、今後の成長に向けた投資や施策を実行しながらも増収により増益
- ✓ 配当： 2月時点の10円から2円増となる、12円に増配

2022年3月期 通期業績見通し

- ✓ 売上高： 市場環境の回復を受け、全事業で増収し、10%の成長を見込む
- ✓ 営業利益： 前年比約50%増の1,260億円、営業利益率は約16%となり、額・率ともに過去最高
- ✓ 当期利益*： 過去最高の890億円となる見込み
- ✓ 配当： 前年比2円増となる、14円に増配予定

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

01

**2021年3月期
連結業績および事業概況**

2021年3月期 通期実績 ①連結業績概況

- 1 売上高： 通期では▲3%の減収まで回復。特に4Qは市場環境の回復を受け、内視鏡事業、治療機器事業ともに2桁成長
- 2 営業利益： 通期では2月時点の見通しを上回る実績。4Qは社外転進支援制度に伴う費用（約120億円）を計上するも、売上の回復により増益

通期実績（4-3月）

参考数値

第4四半期実績（1-3月）

(単位：億円)	通期実績（4-3月）		前年同期比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後**	第4四半期実績（1-3月）			
	2020年3月期	2021年3月期				2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後
売上高	7,552	1 7,305	▲3%	▲2%	▲320億円	1,939	1 2,170	+12%	+11%
売上総利益 (売上総利益率)	4,828 (63.9%)	4,595 (62.9%)	▲5%	▲3%	-	1,152 (59.4%)	1,360 (62.7%)	+18%	+19%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	3,812 (50.5%)	3,570 (48.9%)	▲6%	▲6%	-	1,030 (53.1%)	1,069 (49.3%)	+4%	+3%
その他の収益および費用等	▲94	▲205	-	-	-	▲47	▲119	-	-
営業利益 (営業利益率)	922 (12.2%)	2 820 (11.2%)	▲11%	▲4%	-	75 (3.9%)	2 173 (8.0%)	+129%	+147%
税引前利益 (税引前利益率)	866 (11.5%)	768 (10.5%)	-	-	-	61 (3.1%)	149 (6.9%)	-	-
継続事業からの当期利益 (継続事業からの当期利益率)	606 (8.0%)	657 (9.0%)	+51億円	-	-	▲50 (-)	117 (5.4%)	+167億円	-
非継続事業からの当期利益 (損失)	▲89	▲527	▲438億円	-	-	▲25	▲4	+21億円	-
当期利益	517	130	▲387億円	-	-	▲75	113	+188億円	-
親会社の所有者に帰属する当期利益	517	129	▲388億円	-	-	▲75	113	+188億円	-
EPS	39円	10円	-	-	-	-	-	-	-

*「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載
 **COVID-19の影響がなければ、前年実績は達成できたという前提で、為替影響、その他損益、一時要因（市場対応費用、自主回収費用、M&A）を除いた前年同期と比較して算出

2021年3月期配当

年間配当12円

*継続事業

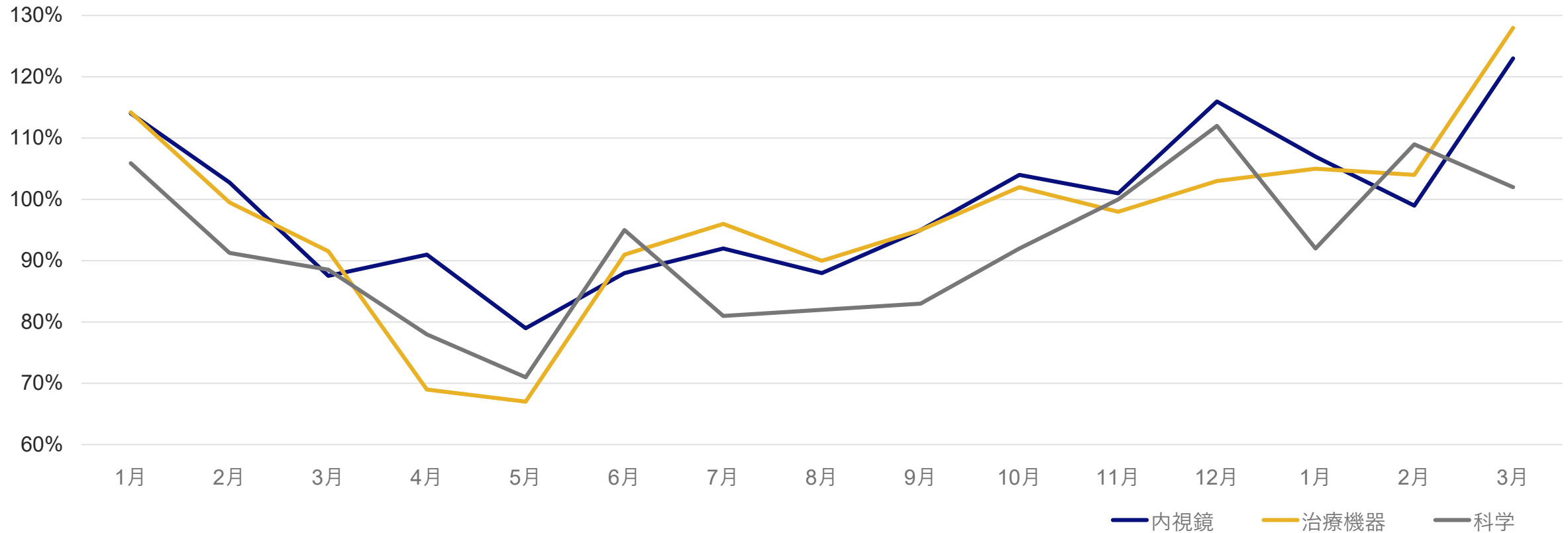
継続事業

非継続事業

月次売上高推移（2020年1月～2021年3月）

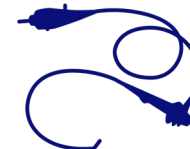
2020年3月は新型コロナウイルスの影響を受けたものの、
2021年3月は市場環境の回復を受け、内視鏡事業で+23%、治療機器事業で+28%の成長

売上高前年同月比*

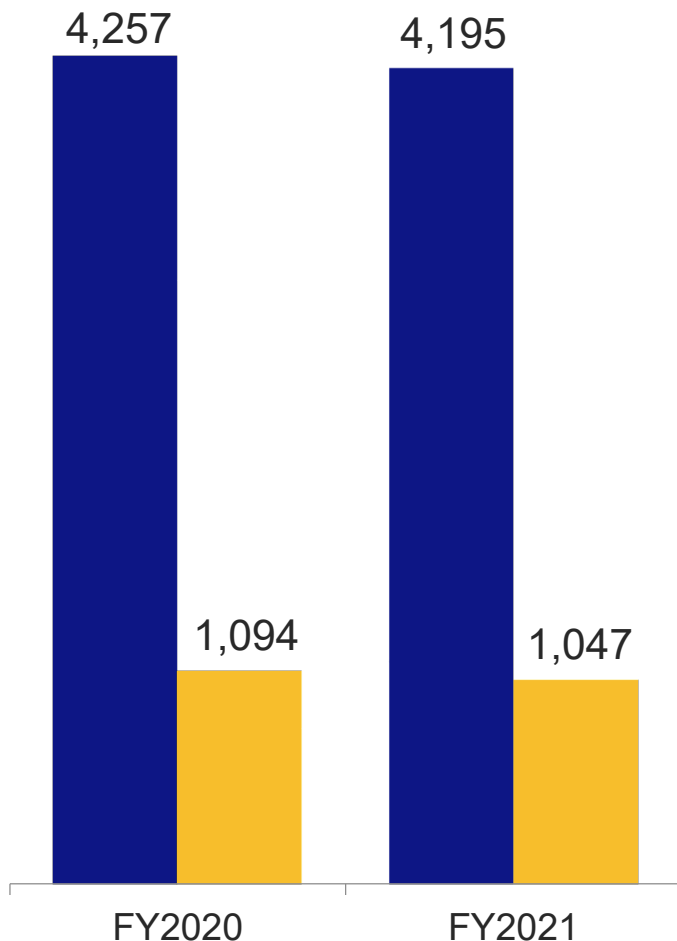


*為替影響調整後

2021年3月期 通期実績 ②内視鏡事業



■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



✓ 売上高

- 通期：英国・東欧が好調に推移した欧州と中国で増収。先端キャップ着脱式十二指腸内視鏡、気管支内視鏡の売上増加
- 4Q：市場環境の回復を受け、北米・中国・日本で2桁成長。「EVIS X1」及び十二指腸内視鏡、気管支内視鏡の売上が拡大

✓ 営業利益

- 通期：内視鏡の自主回収費用（約60億円）や、社外転進支援制度に伴う費用（約40億円）を計上するも、売上の回復等により、為替を除く実質ベースで前年並みの水準を確保
- 4Q：前年同期に十二指腸内視鏡対応費用（104億円）を計上しており、大幅な増益

通期実績（4-3月）

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	4,257	4,195	▲1%	▲1%
営業利益	1,094	1,047	▲4%	0%
その他の損益*	▲19	▲61	-	-
営業利益率	25.7%	25.0%		25.8%

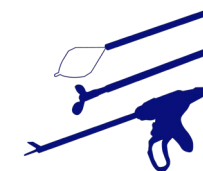
第4四半期実績（1-3月）

	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,106	1,250	+13%	+12%
営業利益	178	280	+57%	+61%
その他の損益*	▲12	▲48	-	-
営業利益率	16.1%	22.4%		23.2%

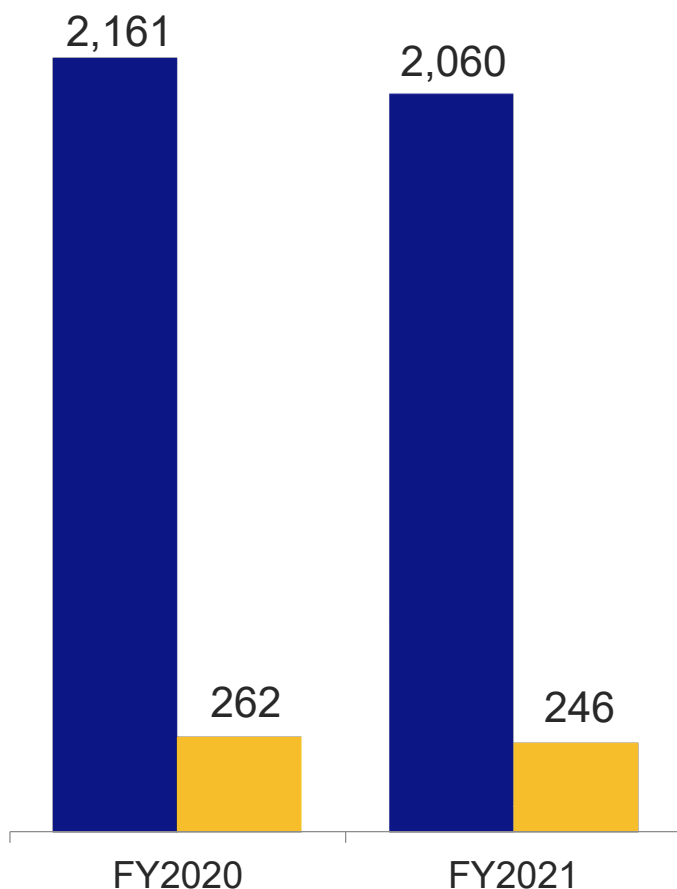
*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

	FY2021 1Q	FY2021 2Q	FY2021 3Q	FY2021 4Q
売上高前年同期比	▲17%	▲8%	+4%	+13%
為替影響調整後	▲14%	▲7%	+6%	+12%
営業利益率	18.5%	26.7%	30.9%	22.4%
為替影響調整後	19.4%	28.2%	30.9%	23.2%

2021年3月期 通期実績 ③治療機器事業



■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



✓ 売上高

- 通期：下期から症例数の回復傾向がみられ、減少幅が大幅に縮小
- 4Q：市場環境の回復を受けて、全ての地域でプラス成長となり、特に前年同期に新型コロナウイルスの影響を受けた中国が好調に推移。呼吸器科処置具と泌尿器科製品が牽引

✓ 営業利益

- 通期：減収および処置具の自主回収費用（約20億円）等を計上するも、販管費の抑制等により、為替を除く実質ベースで営業利益率は0.5ポイント改善
- 4Q：社外転進支援制度に伴う費用（約15億円）を計上するも、売上の回復を主要因として増益

通期実績（4-3月）

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	2,161	2,060	▲5%	▲4%
営業利益	262	246	▲6%	0%
その他の損益*	▲20	▲28	-	-
営業利益率	12.1%	12.0%		12.6%

第4四半期実績（1-3月）

	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	525	599	+14%	+13%
営業利益	37	43	+18%	+26%
その他の損益*	▲9	▲21	-	-
営業利益率	7.0%	7.2%		7.8%

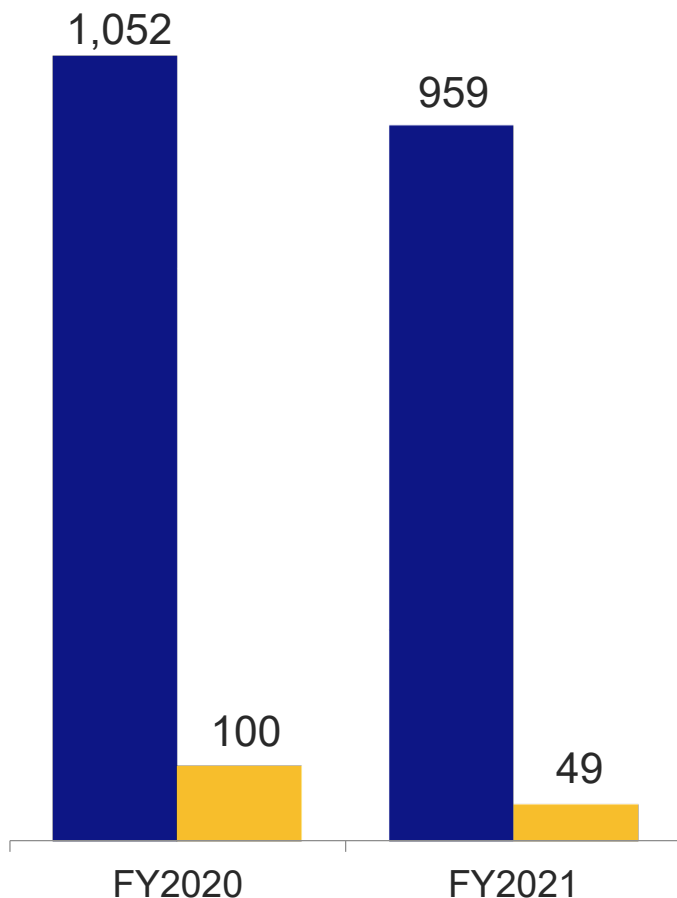
*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

	FY2021 1Q	FY2021 2Q	FY2021 3Q	FY2021 4Q
売上高前年同期比	▲27%	▲6%	▲1%	+14%
為替影響調整後	▲24%	▲6%	+1%	+13%
営業利益率	3.8%	16.6%	18.3%	7.2%
為替影響調整後	4.5%	18.0%	18.4%	7.8%

2021年3月期 通期実績 ④科学事業



■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



✓ 売上高

- 通期：中国の生物顕微鏡や工業用顕微鏡が好調に推移した一方、航空産業等での設備投資意欲の減退や販売活動の制約を受け、減収
- 4Q：市況の回復に伴い、予算執行及び設備投資状況に改善が見られ、生物・工業用顕微鏡、蛍光X線分析計が堅調に推移し、増収

✓ 営業利益

- 通期：減収および生産拠点の操業度低下を要因として減益
- 4Q：社外転進支援制度に伴う費用（約10億円）を計上するも、売上の回復と販管費の効率化により、為替を除く実質ベースで大幅な増益

通期実績（4-3月）

単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,052	959	▲9%	▲8%
営業利益	100	49	▲50%	▲40%
その他の損益*	▲5	▲12	-	-
営業利益率	9.5%	5.2%		6.2%

第4四半期実績（1-3月）

	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	286	289	+1%	+1%
営業利益	20	20	+0%	+17%
その他の損益*	▲1	▲13	-	-
営業利益率	7.0%	6.9%		8.1%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

	FY2021 1Q	FY2021 2Q	FY2021 3Q	FY2021 4Q
売上高前年同期比	▲21%	▲17%	▲1%	+1%
為替影響調整後	▲18%	▲17%	+1%	+1%
営業利益率	-	8.1%	10.3%	6.9%
為替影響調整後	-	10.0%	10.3%	8.1%

財政状態計算書

- ☑ 新型コロナウイルスに対応した調達（社債、借入金）等により、現預金が増加
- ☑ M&Aを実施したことにより、のれんと無形資産が増加

(単位：億円)	2020年3月末	2021年3月末	増減額
流動資産	5,067	5,802	+735
棚卸資産	1,676	1,590	▲86
売却目的で保有する資産	63	1	▲62
非流動資産	5,090	6,009	+919
有形固定資産	2,021	2,390	+368
無形資産・その他	2,085	2,311	+226
のれん	983	1,308	+325
資産合計	10,157	11,810	+1,654

	2020年3月末	2021年3月末	増減額
流動負債	3,338	3,284	▲54
社債及び借入金	810	315	▲495
売却目的で保有する資産に直接関連する負債	42	-	▲42
非流動負債	3,099	4,571	+1,472
社債及び借入金	1,999	3,237	+1,238
資本	3,720	3,955	+235
自己資本比率	36.5%	33.4%	▲3.1pt
負債及び資本合計	10,157	11,810	+1,654

有利子負債：3,553（2020年3月末比+743）

連結キャッシュフロー計算書

- FCF : M&Aの実施による約450億円の支出、映像事業譲渡に伴う約280億円の支出等を考慮すると、FCFは前年並みの水準を確保
- 財務CF : 長期借入や社債発行による調達により、408億円のプラス

通期実績 (4-3月)

		(単位：億円)		増減
		2020年3月期	2021年3月期	
継続事業	売上高	7,552	7,305	▲247
	営業利益	922	820	▲102
	営業利益率	12.2%	11.2%	▲1.0pt
	営業キャッシュフロー	1,335	1,241	▲94
	投資キャッシュフロー	▲624	▲1,189	▲565
	フリーキャッシュフロー	711	52	▲659
	財務キャッシュフロー	▲195	408	+603
非継続事業	現金及び現金同等物期末残高	1,627	2,175	+548

02

2022年3月期 通期業績見通し

通期業績見通し ①連結業績

- 1** 売上高： 市場環境の回復を受け、全事業で増収し、10%の成長を見込む
- 2** 営業利益： 前年から約50%増の1,260億円、営業利益率は約16%となり、ともに過去最高
- 3** 当期利益*： 過去最高の890億円となる見込み
- 4** 配当： 2022年3月期末の配当は前年比2円増となる、14円に増配予定

(単位：億円)	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期見通し	増減	前年比	為替影響調整後 前年比
売上高	7,305	1 8,060	+755	+10%	+7%
売上総利益 (売上総利益率)	4,595 (62.9%)	5,290 (65.6%)	+695	+15%	+11%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	3,570 (48.9%)	4,000 (49.6%)	+430	+12%	+10%
その他の収益および費用等	▲205	▲30	-	-	-
営業利益 (営業利益率)	820 (11.2%)	2 1,260 (15.6%)	+440	+54%	+41%
税引前利益 (税引前利益率)	768 (10.5%)	1,210 (15.0%)			
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	129 (1.7%)	3 890 (11.0%)			
EPS	10円	69円			

2022年3月期配当

4 年間配当14円を予定

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

通期業績見通し ②セグメント別業績

- 1** 内視鏡： 消化器内視鏡システム「EVIS X1」を中心に拡販を進め、増収増益
- 2** 治療機器： 症例数の回復による増収に加え、買収した企業の売上等により、大幅な増収増益
- 3** 科学： 市場環境の回復と中国の売上成長に加え、販管費の効率化を進め、営業利益率は約10%を見込む
- 4** 全社消去： 前期発生した映像事業譲渡関連費用、社外転進支援制度に伴う費用が減少

単位：億円		2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期見通し	増減	前年比	為替影響調整後 前年比
内視鏡	売上高	4,195	1 4,450	+255	+6%	+3%
	営業利益	1,047	1,210	+163	+16%	+9%
治療機器	売上高	2,060	2 2,390	+330	+16%	+13%
	営業利益	246	390	+144	+59%	+47%
科学	売上高	959	3 1,080	+121	+13%	+10%
	営業利益	49	110	+61	+122%	+101%
その他	売上高	92	140	+48	+52%	+49%
	営業利益	▲7	▲40	▲33	▲33億円	▲33億円
全社・消去	営業利益	▲516	4 ▲410	+106	+106億円	+112億円
連結合計	売上高	7,305	8,060	+755	+10%	+7%
	営業利益	820	1,260	+440	+54%	+41%



2022年3月期 経営方針

01

真のグローバル・メドテックカンパニーへの
転換に向けて

事業の持続的成長と持続可能な社会の実現のために

6つの重要なESG領域を絞り込み、新たに追加した環境視点を含む5つのマテリアリティを特定



6つのESG領域に注力



オリンパスの重要課題（マテリアリティ）

- 医療機会の幅広い提供およびアウトカムの向上
- コンプライアンスおよび製品の品質安全性への注力
- 責任あるサプライチェーンの推進
- ダイバーシティ・インクルージョンの推進
- 社会と協調した脱炭素・循環型社会実現への貢献

戦略目標と業績指標



世界をリードするメドテックカンパニーへと成長し、革新的な価値によって患者様、医療従事者、医療機関、医療経済にベネフィットをもたらし、世界の人々の健康に貢献する



年率 **5-6%**の売上高成長率を持続



>20%の営業利益率*を目指す



当社が注力する治療領域において
リーディングポジションを獲得
(消化器科、泌尿器科、呼吸器科)

* 特殊要因調整後

02

2021年3月期の振り返り

FY2021

Covid-19感染拡大は、大きな価値観の転換をもたらすと認識
私たちの存在意義「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」は、
全ての活動の基本思想であり、世界的な高齢化と新興国の成長を背景とした、
長期的な医療需要の拡大は不変



**持続的な成長に向けて
真のグローバル・メドテックカンパニーへの
転換を加速させる好機**

企業改革の断行

持続的な成長に向けて真のグローバル・メドテックカンパニーへの変革を加速



事業ポートフォリオ
の選択と集中



固定費の
構造改革



次世代消化器
内視鏡 EVIS X1の
確実な市場導入



今後の成長を
牽引する製品
開発への着実な
投資継続



効率的な
研究開発



日本産業パート
ナーズ株式会社に
映像事業の譲渡
が完了



社外転進支援
制度の実施



次世代消化器内視
鏡「EVIS X1」を欧
州・アジア一部地域、
日本で発売（内視
鏡CADプラットフォーム
「ENDO-AID」を發
売）



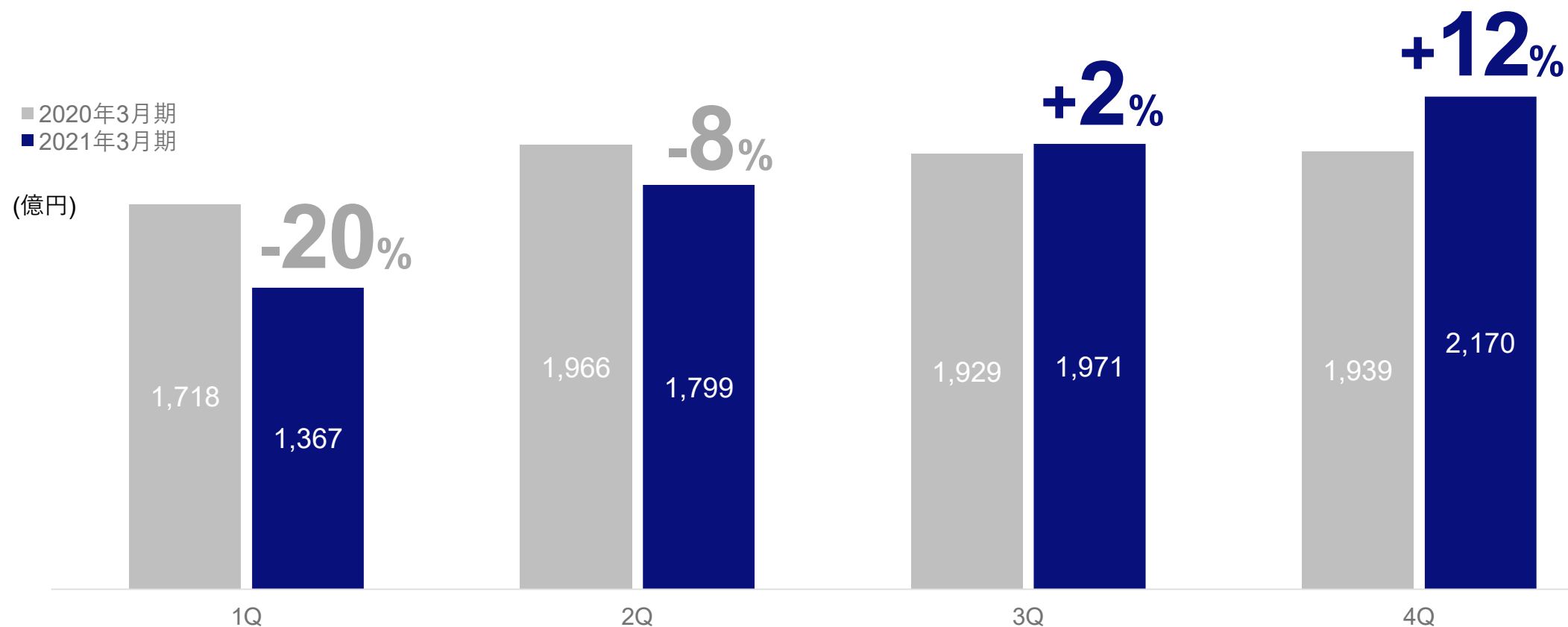
医療分野の成長に向けて
複数のM&Aを実施
（消化器科：Arc
Medical Design社、呼吸
器科：Veran Medical
Technologies社、整形
外科：FH ORTHO社、
外科：Quest Photonic
Devices B.V.社）



より効率的な製品
開発を実現するため、
開発組織を再編し、
フロントフェーズでのコ
ンカレントエンジニアリ
ングを強化

売上高*：底堅い医療需要に基づく業績の回復

3Qにはプラス成長に転換し、4Qに2桁成長となり、パンデミック前を超える水準まで回復



* 継続事業の数値を表示

03

2022年3月期 経営方針



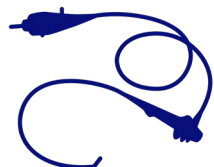
FY2022

グローバル・メドテックカンパニーとしての深化

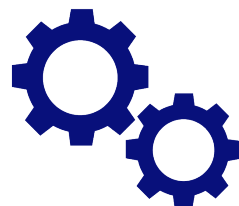
FY2021に実行した企業変革の継続と定着

FY2022

グローバル・メドテックカンパニーとしての深化



医療ビジネスにおける
収益性の高い成長戦略の
深化



Transform Olympusによる
企業体質の更なる改善
および基盤強化



今後の成長を
牽引する製品
開発への着実な
投資継続



サステナブルな社会に資する
ESGへの取り組み

Upcoming Investor Events

OLYMPUS

INVESTOR DAY 2021

日時: 2021年後半

登壇者: 竹内 康雄、ナチョ・アビア

Q&A: CEO・COO・CTO・

CFO・CAO



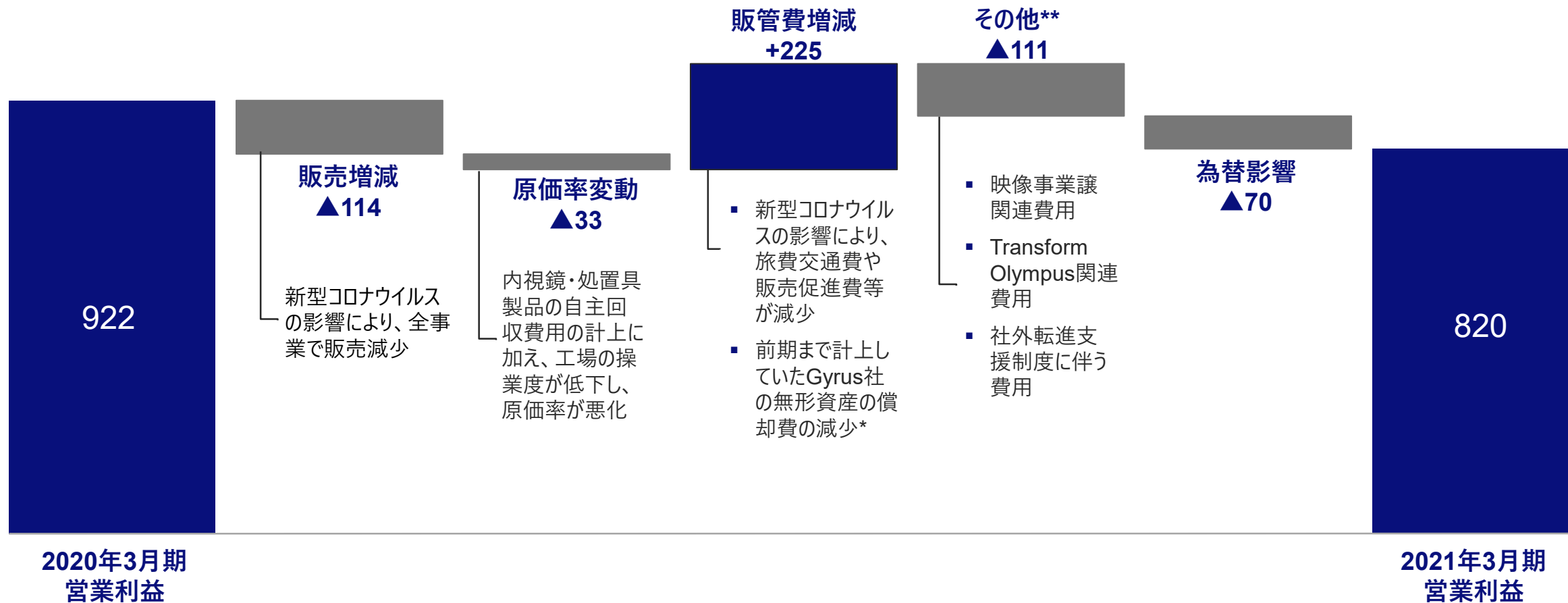
OLYMPUS

A thick, yellow, brushstroke-style underline that tapers at both ends, positioned directly beneath the word "OLYMPUS".

参考資料

2021年3月期 通期実績 ①連結営業利益増減要因

通期実績（4-3月）



(単位：億円) *Gyrus社の無形資産の償却はFY2020に終了 **その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

2021年3月期 通期実績 セグメント別概況

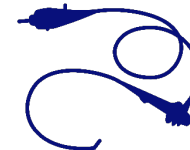
通期実績（4-3月）

単位：億円		2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	4,257	4,195	▲1%	▲1%
	営業利益	1,094	1,047	▲4%	0%
治療機器	売上高	2,161	2,060	▲5%	▲4%
	営業利益	262	246	▲6%	0%
科学	売上高	1,052	959	▲9%	▲8%
	営業利益	100	49	▲50%	▲40%
その他	売上高	82	92	+12%	+11%
	営業利益	▲29	▲7	+22億円	+22億円
全社・消去	営業損益	▲505	▲516	▲11億円	▲12億円
連結合計	売上高	7,552	7,305	▲3%	▲2%
	営業利益	922	820	▲11%	▲4%

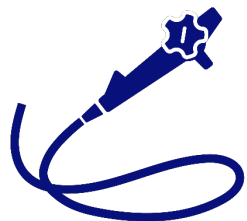
第4四半期実績（1-3月）

2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後
1,106	1,250	+13%	+12%
179	280	+57%	+61%
525	599	+14%	+13%
37	43	+18%	+26%
286	289	+1%	+1%
20	20	+0%	+17%
22	32	+41%	+41%
▲9	8	+18億円	+18億円
▲150	▲178	▲28億円	▲29億円
1,939	2,170	+12%	+11%
75	173	+129%	+147%

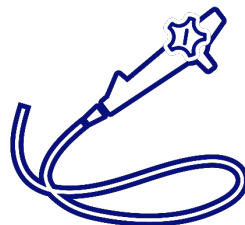
プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2021年5月7日時点)



経営戦略：内視鏡事業における圧倒的ポジションの強化



リユース内視鏡の競争優位性の堅持
継続的な技術革新と販売力



シングルユース内視鏡によるポートフォリオ
拡充
リユース内視鏡を補完する製品ラインアッ
プの提供

Growth driver now

消化器内視鏡

- EVIS LUCERA ELITE (日本、中国)
- EVIS EXERA III (米国、欧州)

外科内視鏡

- VISERA ELITE II* (米国、欧州、日本)
- VISERA ELITE (中国)
- VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)

Just launched / Coming soon

消化器内視鏡

- EVIS X1 (欧州、日本)
- 十二指腸内視鏡 TJF-Q190V (米国)
- 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (欧州)

外科内視鏡

- VISERA ELITE II 3D/IR機能 (米国)
- VISERA ELITE II 3D機能 (中国)

Beyond

消化器内視鏡

- EVIS X1 (米国、中国)
- EVIS X1 3D機能
- シングルユース十二指腸内視鏡

外科内視鏡

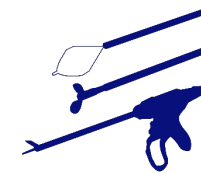
- VISERA ELITE II IR機能 (中国)
- 次世代外科内視鏡システム (欧州、日本)

~6%

内視鏡事業
年平均成長率**

*米国は2D機能のみ、欧州、日本は3D機能/IRを含むフルローンチ済 **2020年3月期を起点に、2021年3月期から2023年3月期までのCAGR

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2021年5月7日時点)

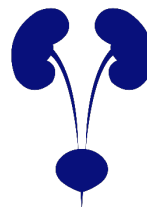


経営戦略：治療機器事業への注力と拡大



消化器科

既存の製品領域において製品ラインアップを拡充し、関連する領域での成長拡大



泌尿器科

前立腺肥大の分野で業界をリードしつつ、製品ラインアップを拡充し、結石処置における競争力を向上



呼吸器科

オリンパスとVeran Medical社間で製品ポートフォリオのシナジーを創出し、投資と革新を継続すると共にBLVR*市場を拡大する

Growth driver now

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- 前立腺肥大症治療用切除デバイス

呼吸器科

- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム

Just launched / Coming soon

消化器科

- 5製品 (米国)
- 5製品 (欧州)
- 10製品 (日本)
- 5製品 (中国)

泌尿器科

- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス iTind (米国、欧州)
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州)

呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (米国)
- シングルユース気管支鏡 (米国)

Beyond

消化器科

- シングルユース胆道鏡

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡

呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (欧州)
- シングルユース気管支鏡

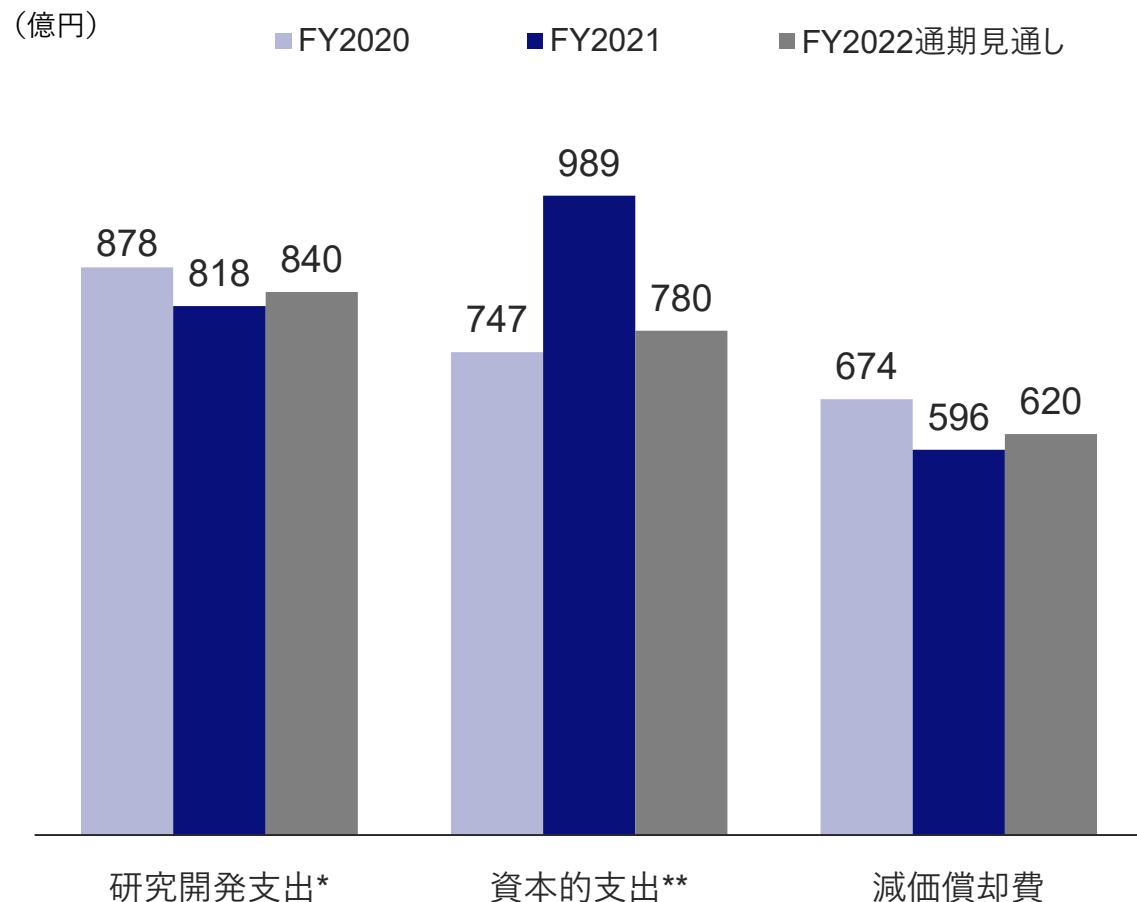
~8%

治療機器事業
年平均成長率**

*Bronchoscopic Lung Volume Reduction **2020年3月期を起点に、2021年3月期から2023年3月期までのCAGR

投資等

通期実績（4-3月）および通期見通し



(単位：億円)

	FY2020	FY2021
研究開発支出* (a)	878	818
開発費資産化 (b)	230	161
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	648	657

(単位：億円)

	FY2020	FY2021
償却費	72	86
	2020年12月末	2021年3月末
開発資産残高	531	562

*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています

**資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています

また、2020年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています
(FY2020通期：129億円、FY2021通期：394億円、FY2022通期見通し：100億円)